

# 令和3年度 春日部市立川辺小学校 課題研修

## 1 研究主題

### 基礎・基本の確実な定着を目指す指導法の研究（算数科）

#### ～表現力を育て、学びを深める指導の工夫～

令和2年度から全面実施となった新学習指導要領では、「生きる力」をより具体化し、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を、ア「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）」、イ「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」、ウ「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」の三つの柱に整理するとともに、各教科等の目標や内容についても、この三つの柱に基づき再整理された。

そのような中、本校では、平成31年度から令和3年度の3年間にわたり、春日部市教育委員会より「算数教育モデル校」の委嘱の機会を頂いた。

算数の学習での児童が身に付ける基礎的・基本的な概念や性質は、生活や学習の基盤である。それらは日常の生活においても、他教科等における学習においても、様々な活動の基になるものである。身に付けるべき基礎的・基本的な内容の習得を重視するとともに、その背景にある概念や性質についての理解を深めながら、概念や性質の理解に裏付けられた確かな知識及び技能を習得することで確実な定着を目指していく事が大切である。そこでは、計算の仕方の基に原理・原則があることや、原理・原則をうまく使って形式的な処理の仕方が考え出されることを理解させる必要がある。また、問題を解決する過程においては、数学的な概念や性質及び数学的な表現や処理の仕方を活用できるようにすることが大切である。

本校ではこれまで、既習事項の定着を図り、数学的活動を通して筋道を立てて考えさせたり、交流を通して相手意識をもった「話す・聞く」などの活動を行ったりして表現力を育て、学びを深める授業を展開してきた。そのことにより、児童の多様な考えが引き出せたこと、自分の考えを論理的に説明できる児童が増えたことが成果として挙げられる。しかしながら、既習事項の定着と表現力には個人差がある。そこで、適応問題を解決する時間を確保して学習の定着を図り、数学的活動を通して筋道を立てて表現できるように、グループ活動や練り上げを充実させることが必要である。今年度は「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善を進め、「わかる」「できる」授業を通して児童に自分の考えを形成する力を育て、自信をもって表現できる児童を育成していきたい。

以上のことから、本研究主題を「基礎・基本の確実な定着を目指す指導法の研究～表現力を育て、学びを深める指導の工夫～」とし、児童に生きて働く力を育成するため算数科を中心に学校教育活動全体を通して研究を深めていきたい。

## 2 研究の仮説

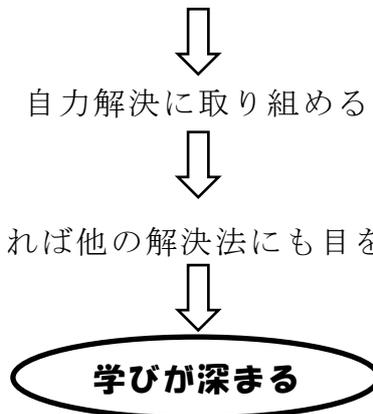
- 1 学年間の系統性を意識し、既習事項の確実な定着を図り、見通しをもち課題を解決できるようにすれば、学びを深めることができるだろう。
- 2 数学的活動を通して、筋道を立てて考えをもてるようにすれば、表現力を育てることができるだろう。
- 3 交流を通して、相手意識をもった「話す・聞く」などの活動を行えば、学びを深めることができるだろう。

学習過程に沿った仮説としてみた。

### 仮説1 つかむ、見通す の過程

学年間の系統性を意識し、既習事項の確実な定着を図り、見通しをもち課題を解決できるようにすれば、学びを深めることができるだろう。

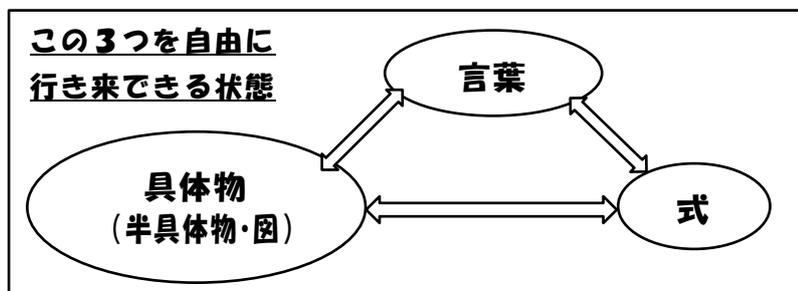
**見通し** 全体で見通しをもつことで誰もが1つは解決方法が見つけられる。



### 仮説2 考える の過程

数学的活動を通して、筋道を立てて考えをもてるようにすれば、表現力を育てることができるだろう。

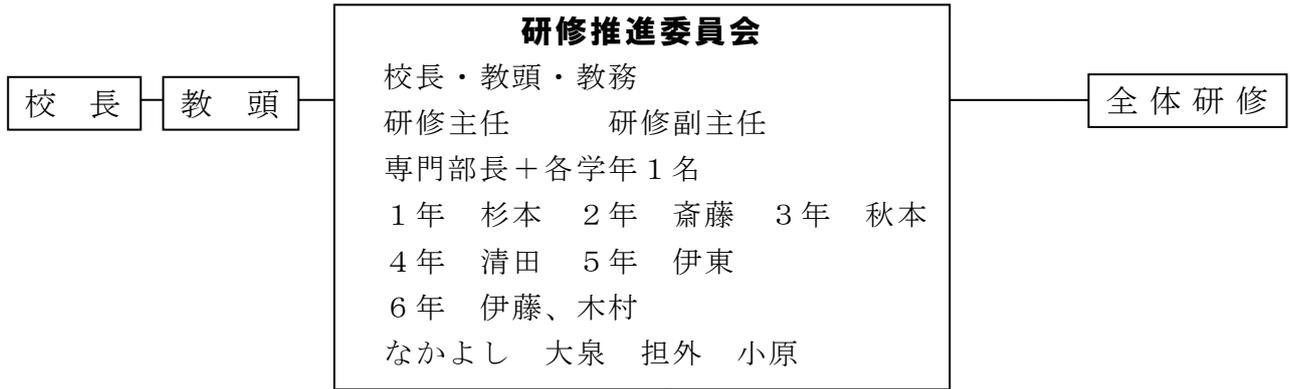
**数学的活動** → 半具体物の操作  
式、図、言葉



### 仮説3 深める の過程

交流を通して、相手意識をもった「話す・聞く」などの活動を行えば、学びを深めることができるだろう。

◇ 研究組織



授業研究部（各学年 1 名）		学習環境部（各学年 1・2 名）		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習過程の改善               <ul style="list-style-type: none"> <li>— かわべの算数</li> <li>— 授業アイデア例の活用</li> <li>— 適応問題の時間の確保</li> <li>— 百珠そろばん</li> </ul> </li> <li>・ 指導案の検討</li> <li>・ 既習事項を生かした算数コーナー</li> <li>・ 学び合いの充実               <ul style="list-style-type: none"> <li>— 話形カードの改善</li> <li>— 考えをつないでいくための発問</li> </ul> </li> <li>・ 評価</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スキルアップタイムの定着               <ul style="list-style-type: none"> <li>└ スキルアップタイムの効果的な進め方</li> </ul> </li> <li>・ チャレンジテスト</li> <li>・ 児童の意識調査</li> <li>・ 算数コーナーの充実</li> <li>・ 学力テストの結果分析</li> <li>・ 家庭学習の定着</li> </ul>		
1 年	2 年	1 年	2 年	3 年
3 年	4 年	4 年	5 年	
5 年	6 年	6 年		
なかよし	担外	なかよし		
		担外		

低学年ブロック	中学年ブロック	高学年ブロック
1 年	3 年	5 年
2 年	4 年	6 年
なかよし	なかよし	なかよし
担外	担外	担外

◇ 研究計画

月	日	形態	研修内容
4	5 (月)	全体会・専門部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究組織づくり</li> <li>・研究の進め方などの共通理解について</li> <li>・年間授業計画</li> <li>・各部会の活動</li> </ul>
	15 (木)	専門部会	
5	13 (木)	専門部会	
	20 (木)	専門部会	
6	3 (木)	専門部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部会の活動</li> <li>・各部会の活動</li> </ul>
	10 (木)	専門部会	
	17 (木)	① 支援担当6年	
7	上旬	② 支援担当6年	
8	19 (火)	研究発表会準備	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     全国算数・数学教育研究大会                 </div>
	22 (日)		
9	2 (木)	研究発表会準備	
	6 (月)	研究発表会準備	
	13 (月)	研究発表会準備	
	16 (木)	研究発表会準備	
	22 (水)	研究発表会準備	
10	7 (木)	③ 支援担当5年	
	14 (木)	④ 支援担当4年	
	21 (木)		
11	4 (木)	研究発表会準備	
	11 (木)	研究発表会準備	
	17 (水)	研究発表会	
	18 (木)	専門部会	
1	13 (木)	研修	
2	3 (木)	学年・専門部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の振り返り</li> <li>・紀要作成</li> </ul>
	17 (木)	専門部会	
3	7 (月)	全体会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度のまとめと来年度の研修について</li> </ul>

※授業研究会の司会、記録（ノート、デジカメ）は、ブロックの学年が行う。